

令和5年度

SYLLABUS

～ Approach to Studying ～

1年 普通科



香川県立高松南高等学校

はじめに

皆さんは、マンガを読みますか？テレビやパソコンでゲームをしますか？

マンガやゲームが生活に深く根付いている今、マンガを読んだことやゲームをしたことのない人を捜すのは至難の業でしょう。中には、自分の時間のほとんどを、マンガやゲームに費やす人もいたりして…。

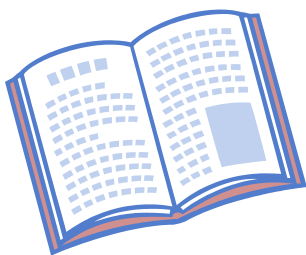
ところで、なぜ、マンガを読んだりゲームをしたりするのか考えたことがありますか。何人かの生徒に聞いてみると、「面白いから」とか「ストレス解消」という答えが返ってきました。しかし「なぜ、そんなことを聞くのか」と、逆に質問されてしまいました。楽しいことに対して「なぜそれをするのか」と聞くことが、そもそも不思議だったようです。

では、勉強についてはどうでしょう。「なぜ勉強しなければいけないのか」、「こんな勉強をして何になるのか」。そう思ったことはありませんか。この質問にズバリ答えるのはとても難しいことです。考古学者の平賀・キートン・太一氏は、閉鎖されるパリのシモンズ社会人学校の冬季セミナー最後の講義で、「人間は一生学び続けるべきです。人間には好奇心、知る喜びがある。肩書きや、出世して大臣になるために学ぶのではない。それが人間の使命だからです。」と本質的理由を受講生に語っています。少し考えてみても、テストに出る、成績が上がるとお小遣いも上がるなどの外発的理由や、将来の仕事に役立つ、分かれると充実感があるなどの内発的理由まで様々でしょう。

シラバス (Syllabus) の語源はギリシャ語の「Sittuba」で、元々は羊皮紙製の書籍ラベルのこと。明治時代には「教授要目」などと訳されていたようです。ページをめくっていただければお分かりのように、本校のシラバスは、科目の概要や学習目標、授業計画、学習方法など、履修や選択するために必要な情報をコンパクトにまとめています。

高等学校での学習の基本は「授業」。もちろん家庭学習も大切ですが、毎日の「授業」をないがしろにして、家庭学習は成立しません。

折に触れ、シラバスのページをめくってください。きっと、授業を通して何をどう学ぶのかを考える手助けになるはずです。



参考文献：『開かれた学びへの出発』市川伸一（金子書房）

『MASTER キートン』勝鹿北星（小学館）

普通科 コース制

第2学年から、自分の進路・適性にあわせて、コースを選択します。

- ①文理コース(文系) 英語、国語、地理歴史を重点的に、各教科バランスよく学習します。
国公立大学の文学・外国語・法学・経済・社会学部などへの進学に対応しています。
- ②文理コース(理系) 数学、理科を重点的に、各教科バランスよく学習します。
国公立大学の理学・工学・薬学・農学部などへの進学に対応しています。
- ③総合(文系)コース 英語、国語、公民、芸術を重点的に学習します。
私立大学の文学・外国語・経済・福祉・家政・芸術・体育学部などへの進学や、
短期大学、各種専門学校への進学に対応しています。
- ④総合(理系)コース 数学、理科を重点的に学習します。
私立大学の理学・工学・農学部などへの推薦入試での進学や、短期大学、各種
専門学校への進学に対応しています。
特に、医療系への進学を考えている生徒に対応しています。
- ⑤情報ビジネスコース 商業科目の簿記・情報処理などを重点的に学習し、各種検定試験に挑戦します。
経済・商学部系の大学や、情報ビジネス系の専門学校への進学、また、
一般企業への就職(事務職、販売職、サービス職等)に対応しています。

①文理コース(文系)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
1年	現代 の 国語	言語 文化	地理 総合	歴史 総合	数学Ⅰ		数学 A		生物 基礎		体育		保健	芸術 Ⅰ	英語コミュニ ケーションⅠ	論理・ 表現Ⅰ	情報 Ⅰ	総合	L H R															
2年	文学国語		古典探究		地理 探究	日本史 探究	世界史 探究	公共	数学Ⅱ		数学 B	数学 C	化学 基礎	地学 基礎	体育	保健	英語コミュニ ケーションⅡ	論理・ 表現Ⅱ	家庭 基礎	総合	L H R													
3年	論理国語		古典探究		地理探究	日本史探究	世界史探究	政治・ 経済		数学Ⅱ		数学 B	数学 C	化学 基礎	生物 基礎	地学 基礎	体育	英語コミュニ ケーションⅢ		論理・ 表現Ⅱ	総合	L H R												

◆ 地理歴史において、探究科目は2年3年継続履修する。

②文理コース(理系)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34			
1年	現代 の 国語		言語 文化		地理 総合		歴史 総合		数学Ⅰ			数学 A		生物 基礎		体育			保健	芸術 Ⅰ		英語コミュ ケーションⅠ		論理・ 表現 Ⅰ		情報 Ⅰ		総合	L H R								
2年	文学国語		古典 探究		地理 探究	日本史 探究	世界史 探究	公共		数学Ⅱ			数学Ⅲ	数学 B	数学 C	化学 基礎		化学		生物 物理 基礎		体育		保健	英語コミュニ ケーションⅡ		論理・ 表現 Ⅱ		家庭 基礎								
3年	論理国語		古典 探究		地理探究	日本史探究			数学Ⅲ			数学 B	数学 C	物理 基礎	生物		化学		体育		英語コミュニ ケーションⅢ		論理・ 表現 Ⅱ		総合	L H R											
					世界史探究								物理																								

- ◆ 地理歴史において、探究科目は2年3年継続履修する。
- ◆ 2年次に物理基礎を選択した者は3年次に物理を選択し、2年次に生物を選択した者は3年次に物理基礎及び生物を選択する。

③総合コース(文系)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
1年	現代 の 国語		言語 文化		地理 総合		歴史 総合		数学Ⅰ			数学 A		生物 基礎		体育			保健		芸術 Ⅰ		英語コミュ ニケーションⅠ			論理・ 表現Ⅰ		情報 Ⅰ		総合		L H R
2年	文学国語			古典 探究		公共		数学Ⅱ				化学基礎			生物 基礎		体育		保健		芸術 Ⅱ		英語コミュ ニケーションⅡ			論理・ 表現Ⅱ		家庭 基礎		総合		L H R
3年	論理国語				古典 探究		地理探究 ----- 日本史探究 ----- 世界史探究			政治・ 経済			数学Ⅱ		科学と 人間 生活			体育			芸術 Ⅲ		英語コミュ ニケーションⅢ			論理・ 表現Ⅱ		総合		L H R		

- ◆ 2年の芸術科Ⅱの科目は、1年で履修したⅠ科目と同じ科目とする。
また、3年の芸術科Ⅲの科目は、1年2年で継続履修したⅠ及びⅡ科目と同じ科目とする。

④総合コース(理系)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1年	現代 の 国語		言語 文化		地理 総合		歴史 総合		数学Ⅰ			数学 A	生物 基礎	体育			保健		芸術 Ⅰ	英語コミュニ ケーションⅠ			論理・ 表現 Ⅰ			情報 Ⅰ		総合	L H R	
2年	文学国語			古典 探究		公共		数学Ⅱ			数学 B	化学 基礎	化学	生物 ----- 物理 基礎		体育		保健		英語コミュニ ケーションⅡ			家庭 基礎			総合	L H R			
3年	文学 国語		古典 探究		地理探究 ----- 日本史探究 ----- 世界史探究			数学Ⅱ			数学 C	物理 基礎	生物 ----- 物理			化学		体育		英語コミュニ ケーションⅢ			総合	L H R						

- ◆ 2年次に物理基礎を選択した者は3年次に物理を選択し、2年次に生物を選択した者は3年次に物理基礎及び生物を選択する。

⑤情報ビジネスコース

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
1年	現代 の 国語		言語 文化		地理 総合		歴史 総合		数学Ⅰ			数学 A		生物 基礎		体育			保健		芸術 Ⅰ		英語コミュニ ケーションⅠ		論理・ 表現 Ⅰ		情報 Ⅰ		総合		L H R
2年	文学国語			公共		数学Ⅱ		体育		保健		英語 コミュニ ケーションⅡ		論理・ 表現Ⅱ		家庭 基礎		ビジネス 基礎		ビジネ ス・コミュ ニケーション		簿記				情報 処理		総合		L H R	
3年	論理国語				地理探究 ----- 日本史探究 ----- 世界史探究			数学Ⅱ		科学と 人間生活			体育			英語 コミュニ ケーションⅡ		論理・ 表現Ⅱ		課題研究			ビジネ ス・コミュ ニケーション		マーケ ティング		情報 処理 ----- 原価 計算		総合		L H R

教科 国語

科目 現代の国語

対象 1年生 普通科

単位 2

主な授業形態 座学

目 標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	○言葉の特徴や使い方、情報の扱い方など、学んだことの80%以上理解できる。	○他者を意識して話す、聞く、書く、読むことができる。 ○他の考えと自分の考えを比較できる。 ○他の考えと自分の考えを比較した文章が書ける。	○自ら、言葉（話す・書く）を使って他者に関わろうという強い意欲がある。 ○将来・人生・生活などに学んだ内容を結び付けて考えようという意欲がある。 ○言葉の特徴や使い方、情報の扱い方などを、理解しようとする強い意欲がある。
ステップ	○言葉の特徴や使い方、情報の扱い方など、学んだことの65%以上(80%未満)理解できる。	○自分の伝えたいことを、まとめたり、伝えたりできる。 ○他者の考えをまとめられる。他者の考えを理解できる。	○言葉（話す・書く）を使って他者に関わろうという意欲がある。 ○言葉の特徴や使い方、情報の扱い方などを、理解しようとする意欲がある。
ホップ	○言葉の特徴や使い方、情報の扱い方など、学んだことの40%以上(65%未満)理解できる。	○自分の伝えたいことを、ある程度まとめたり、伝えたりできる。 ○他者の考えをある程度まとめたり、理解したりできる。	○言葉（話す・書く）を使って他者に関わろうとしている。 ○言葉の特徴や使い方、情報の扱い方などを、理解しようとしている。

成長のプロセス

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「現代の国語」（大修館書店）

副教材 「学習ノート」（大修館書店） 「新版六訂カラー版 新国語便覧」（第一学習社）
「漢字の学習」（香川県高等学校国語教育研究会）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

	単元名・学習内容
1 学期	●「考える」ことの重要性を学ぶ 1、明日をひらく ●自分の考えを的確に伝える（話す・聞く）（書く）（伝わるように話す・わかりやすく書く） 3、的確に伝える 4、意見を示す
2 学期	●情報を的確にとらえる（読む） 2、要点をつかむ 5、論理をとらえる 9、情報を比較する 11、主張を吟味する ●情報に対する意見を伝える（書く）（話す・聞く） 6、魅力的に伝える 7、資料を駆使する
3 学期	●他者を意識して考え、また、他者を意識して自分の考えを伝える（書く）（話す・聞く）（読む） 8.他者と交流する 10.他者を動かす 12.考えを発信する

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・予習として、教科書を読んで、わからないところを発見しておく。
- ・「聞く・話す」、「書く」、「読む」のそれぞれの力について、自分の課題やできるようになりたいことを意識しながら授業に臨み、授業で何がわかったか、できるようになったかを振り返る習慣をつける。
- ・板書を写し取るだけでなく、自分の考えや感想、疑問点等を書き加えたり、後で調べたことを追記したりするなど、自分で工夫をしたノート作りをする。
- ・提出物は丁寧に仕上げて、期限を守って提出する。
- ・読書を習慣化するなど、日常生活の中に「読む・書く・話す・聞く」を積極的に取り入れる。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート ・感想 ・授業における発表や成果物 ・ノート ・長期休業中の課題	・ノート ・振り返りシート ・感想 ・レポート ・長期休業中の課題
重みづけ	1	1	1
	高校での国語の学習の基本となる科目です。3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目 標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(知識及び技能)
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	○言葉の特徴や使い方、言語文化に関することなど、学んだことの80%以上理解できる。 ○作品の背景や他の作品などとの関係を踏まえて、作品を解釈したり、評価したりできる。(読む) ○自ら題材を決め、他者を意識して表現することができる。(書く)	○言葉の特徴や使い方、言語文化に強い興味や関心を持ち、理解しようとする強い意欲がある。 ○自ら言葉(話す・書く)を使って他者に関わろうという強い意欲がある。
	ステップ	○言葉の特徴や使い方、言語文化に関することなど、学んだことの65%以上(80%未満)理解できる。 ○作品そのものの内容を解釈したり、評価したりできる。(読む) ○自分の伝えたいことを、まとめたり、伝えたりできる。(書く)	○言葉の特徴や使い方、言語文化に興味や関心を持ち、理解しようとする意欲がある。 ○言葉(話す・書く)を使って他者に関わろうという意欲がある。
	ホップ	○言葉の特徴や使い方、言語文化に関することなど、学んだことの40%以上(65%未満)理解できる。 ○教師等による解説や助力を頼りに、作品そのものの内容がある程度解釈したり、評価したりできる。(読む) ○自分の伝えたいことを、ある程度まとめたり、伝えたりできる。(書く)	○言葉の特徴や使い方、言語文化に興味や関心を持とうとし、理解しようとしている。 ○言葉(話す・書く)を使って他者に関わろうとしている。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「言語文化」（大修館書店）

副教材 「学習ノート」（大修館書店） 「新版六訂カラー版 新国語便覧」（第一学習社）
「古典文法クリアノート」（尚文出版） 「漢字の学習」（香川県高等学校国語教育研究会）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

	単元名・学習内容
1 学期	●言語文化への視点を持つ 世界を見渡す窓（現代文） 等 ●考えを表す言葉の変遷を学ぶ 論語（漢文） 徒然草（古文） 随筆（現代文） 等
2 学期	●物語を表す言葉の変遷を学ぶ 故事成語（漢文） 物語（古文） 小説（現代文） 等
3 学期	●想いを表す言葉の変遷を学ぶ 漢詩（漢文） 和歌（古文） 短歌・俳句・詩（現代文） 等

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・予習として、教科書を読んで、わからないところを発見しておく。
- ・「聞く・話す」、「書く」、「読む」のそれぞれの力について、自分の課題やできるようになりたいことを意識しながら授業に臨み、授業で何がわかったか、できるようになったかを振り返る習慣をつける。
- ・板書を写し取るだけでなく、自分の考えや感想、疑問点等を書き加えたり、後で調べたことを追記したりするなど、自分で工夫をしたノート作りをする。
- ・提出物は丁寧に仕上げて、期限を守って提出する。
- ・読書を習慣化するなど、日常生活の中に「読む・書く・話す・聞く」を積極的に取り入れる。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート ・感想 ・授業における発表や成果物 ・ノート ・長期休業中の課題	・ノート ・振り返りシート ・感想 ・レポート ・長期休業中の課題
重みづけ	1	1	1
	高校での国語の学習の基本となる科目です。3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目 標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	世界の地域的特徴を、自らの生活や日本と比較することができる。		
	○世界の地域的特徴を自らの生活や、日本と比較したり、結びつけながら深く理解している。 ○主題図やグラフ・表などを自らの力で正確に読み取ることができる。 ○自らの力で効果的に主題図やグラフ・表を表現できる。 ○学びを深めるために必要な情報に気づき、それを自ら収取できる。	○論理的に討論や議論をすることができる。 ○主題図・グラフなどを用いて効果的に自分の考えを表現できる。 ○多面的・多角的に考察したり、評価したり、自分の考えを持つことができる。 ○自分の考えを文章で論理的かつ確に相手に伝えることができる。	○日常生活や他教科で学んでいることと結びつけることができる。 ○常に創意工夫し、課題を解決しようとする。 ○自分の人生との関わりを意識しながら学習に取り組むことができる。 ○常に学習態度が主体的・対話的で、より深く学び続けようとしている。
成長のプロセス	世界の地域的特徴を、日本と比較することができる。		
	○世界の地域的特徴を日本と結びつけながら理解している。 ○主題図やグラフ・表などを自らの力で読み取ることができる。 ○自らの力で主題図やグラフ・表を表現できる。 ○学びを深めるためには新しい情報が必要なことに気づくことができる。	○自らの言葉で討論や議論をすることができる。 ○主題図やグラフ・表を用いて自分の考えを表現できる。 ○教師の必要最小限の助力によって多面的・多角的に考察したり、評価したり、自分なりの考えを持つことができる。 ○自分の考えを文章で相手に伝えることができる。	○身の回りの生活と関連付けて学ぼうとしている。 ○学び方や取り組み方を改善し、学び続けようとする。 ○自分の進路目標との関わりを意識しながら学習に取り組むことができる。 ○学習態度が主体的・対話的で、学び続けようとしている。

観点別：A

ジャンプ

評価：5



観点別：B

ステップ

評価：4

 観点別：C ホ ッ プ 評定：3	世界と自らの生活や日本とのつながりを理解することができる。		
	○世界の地域的特徴について基礎的・基本的な内容を理解している。 ○教師等の助力があれば主題図やグラフ・表などに含まれている地理的情報を読み取ることができる。 ○教師等の助力があれば主題図やグラフ・表を表現できる。 ○教師等の助力があれば、学びをさらに深めるためには、新しい情報が必要なことに気づくことができる。	○教師等の助言があれば、討論や議論をすることができる。 ○教師等による個別の助言があれば、主題図やグラフ・表を用いて自分の考えを表現できる。 ○教師等による個別の助力があれば、深く考察をしたり、自分なりの考えを持つことができる。 ○教師等の助力があれば文章で自分の考えを相手に伝えることができる。	○基礎的・基本的な地理的知識や技術、考察力を身につけようとしている。 ○学習内容をさらに理解するために学び方を改善しようとする。 ○教師の助力があれば進路実現に向け、学習に取り組むことができる。 ○学習態度が主体的で、提出物などを期日までに自分の力でやりきることができる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「新地理総合」（帝国書院） 「新詳高等地図」（帝国書院）
 副教材 「新地理総合ノート」（帝国書院）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム 1節 地図上の位置と時差 2節 地図の役割と種類 第2章 結び付きを深める現代世界 1節 現代世界の国家と領域 2節 グローバル化する世界 第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性 1節 世界の地形と人々の生活 2節 世界の気候と人々の生活 3節 世界の言語・宗教と人々の生活
2 学期	4節 歴史的背景と人々の生活 5節 世界の産業と人々の生活 第2章 地球的課題と国際協力 1節 複雑に絡み合う地球的課題 2節 地球環境問題 3節 資源・エネルギー問題 4節 人口問題 5節 食料問題
3 学期	6節 都市・居住問題 第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境 2節 地震・津波と防災 3節 火山災害と防災 4節 気象災害と防災 5節 自然災害への備え 第2章 生活圏の調査と地域の展望 1節 生活圏の調査と地域の展望

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業を大切にし、板書された事柄だけでなく、先生の補足説明も書く習慣を身に付けるようにする。
- ・主題図の作成などの作業には丁寧に取り組むようにする。
- ・普段から地図帳に目を通し、的確な世界地図を思い描けるようにしておく。
- ・普段から新聞等に目を通し、国際社会の動向を的確に掴んでおく。
- ・地図やグラフ、表などの資料から論理的に考察する習慣を身に付けるようにする。
- ・自ら地理的な課題を見つけ、自分の考えをまとめ、発表できるようにしておく。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	- 小テスト - 定期考査	- 定期考査 - レポート - 授業における発表や成果物 - ノート - 長期休業中の課題	- ノート - 振り返りシート、感想 - レポート - 長期休業中の課題
重みづけ	1	1	1
	3つの資質・能力をバランス良く身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目標

歴史的な見方・考え方を働かせ、課題の追究・解決活動などを通して、広い視野に立ち、国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 近現代の諸事象について、世界と日本を広い視野から捉え、現代の諸課題を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、相互の関連や現在とのつながりに着目して、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	近現代の歴史的知識をもとに、自らの生活や現代の諸課題と関連・比較することができる。		
	観点別：A ジャンプ 評定：5 ○近現代の歴史的諸事象をもとに、自らの生活は、日本や世界の歴史と比較したり結び付けたりしながら深く理解している。 ○資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付け、適切な場面で活用できる。 ○学びを深めるために必要な情報を自ら選び、収集できる。	○テーマ毎に自ら歴史的な問いを見出し、学習のねらいを明確にしたうえで課題を追究している。 ○複数の視点から歴史的事象を批判的に捉えて広い視野から考察したり、評価したり、自分なりの考えを持つことができる。 ○歴史的資料を根拠に、自分の考えを文章で論理的かつ的確に相手に伝えることができる。 ○歴史的な知識・技能を用いて論理的に討論や議論ができる。	○学習内容を日常生活や他教科で学んでいることと結び付ける姿勢が見られる。 ○常に創意工夫し、課題を解決しようとしている。 ○自分の人生との関わりを意識しながら学習に取り組んでいる。 ○常に学習態度が主体的・対話的であり、より深く学び続けようとする姿勢がみられる。
	近現代の歴史的知識をもとに、自らの生活と関連・比較することができる。		
	観点別：A ステップ 評定：4 ○近現代の歴史的諸事象をもとに、自らの生活は、日本や世界の歴史と比較したり結び付けたりしながら理解している。 ○資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けており、活用できる。 ○学びを深めるためには新しい情報が必要なのに気づき、情報を収集できる。	○テーマ毎に自ら歴史的な問いを見出したうえで課題を追究している。 ○複数の視点から歴史的事象を捉えて考察をし、自分なりの考えを持つことができる。 ○歴史的資料を参考に、自分の考えを文章で相手に伝えることができる。 ○歴史的な知識・技能を用いて自らの言葉で討論や議論ができる。	○学習内容を身の回りの生活と結び付けて学ぼうとしている。 ○学び方や取り組み方を改善し、学び続けようとする。 ○自分の進路目標との関わりを意識しながら学習に取り組んでいる。 ○学習態度が主体的・対話的であり、学び続けようとする姿勢がみられる。



観点別：B ホ ッ プ 評定：3	近現代の歴史的知識をもとに、自らの生活と結びつけることができる。		
	○自らの生活が、日本や世界の歴史と結びついていることを理解している。 ○資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けている。 ○学びを深めるために、新しい情報が必要なことに気付くことができる。	○テーマ毎に歴史的な問いを見出すことができる。 ○1つの視点から歴史的事象を捉えて考察をし、自分なりの考えを持つことができる。 ○自分の考えを文章で相手に伝えることができる。 ○歴史的な知識・技能を用いて討論や議論ができる。	○基礎的な歴史的知識や技能、考察力を身に付けようとしている。 ○学習内容をさらに理解するために学び方を改善しようとしている。 ○進路実現に向け、学習に取り組もうとする姿勢が見られる。 ○学習態度が主体的で、提出物などを期日までに取り組んでいる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「わたしたちの歴史 日本から世界へ」（山川出版社）

副教材 「歴史総合資料集」（山川出版社）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

	単元名・学習内容	
1 学期	歴史の扉 1. 歴史と私たち	2. 歴史と資料
	第1部 近代化と私たち 1. 近代化への問い 3. 国民国家と明治維新	2. 結びつく世界と日本の開国 4. いまの私たちにつながる課題
2 学期	第2部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1. 国際秩序の変化や大衆化への問い 3. 経済危機と第二次世界大戦	2. 総力戦と社会運動 4. いまの私たちにつながる課題
3 学期	第3部 グローバル化と私たち 1. グローバル化への問い 3. 世界秩序の変容と日本	2. 冷戦と世界経済 4. いまの私たちにつながる課題

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業を大切に、板書された事柄だけでなく、先生のアドバイスや補足説明も書き取る習慣を身に付けるようにする。
- ・文献資料や絵画資料などの資料を読解する際には丁寧に取り組むようにする。
- ・グループ活動などの場面では他の人としっかり議論する。
- ・普段から新聞やニュースなどを見る習慣を付け、現代の社会の動きを的確に掴んでおく。
- ・予習として、教科書を読んで、わからないところを発見しておく。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・ノート ・長期休業中の課題	・ノート ・振り返りシート、感想 ・レポート ・長期休業中の課題
重みづけ	1	1	1
	3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目 標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数と式，図形と計量，二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 命題の条件や結論に着目し，数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力，図形の構成要素間の関係に着目し，図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力，社会の事象などから設定した問題について，データの散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析を行い，問題を解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
ジャンプ	○公式・法則，用語などを理解し，導くことができる。 ○副教材の応用問題の解法を理解している。	○十分に数理的に考察する力を付けている。 ○応用問題の解法を自分の言葉で表現し，記述できる。	○問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。 ○副教材の応用問題に積極的に取り組む。
ステップ	○基本的な概念，原理・法則，用語・記などを理解している。 ○副教材の基本的な内容をおおむね理解している。	○おおよその数理的に考察する力を付けている。 ○基本問題の解法を自分の言葉で表現し，記述できる。	○教科書で学んだ範囲に対し，副教材で復習を行う。 ○提出課題等，計画的に行っている。



ホ ッ プ

○数学用語を理解し、教師の説明を受けたり、例題を参考にしたりしながらの練習問題に取り組む。

○教師の説明を参考にし、公式成立の理由を理解しようと努める。

○板書を写すだけでなく、教師の説明をメモするなど自分のノートを作る。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 改訂版「新編 数学Ⅰ」 数研出版

副教材 改訂版3TRIAL 数学Ⅰ 数研出版

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学 期	1章 数と式 1節 式の計算 2節 実数 3節 1次不等式
	2章 集合と論証 1節 集合 2節 命題と論証
2 学 期	3章 2次関数 1節 2次関数とそのグラフ 2節 2次方程式と2次不等式
3 学 期	4章 図形と計量 1節 鋭角の三角比 2節 三角比の拡張 3節 三角形への応用
	5章 データの分析 1節 データの整理と分析 2節 データの相関

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 予習 教科書を読み、疑問点をチェックする。
- ・ 授業 積極的な態度で臨み、ノートをきちんととる。疑問点については、授業中に質問する、あるいは休み時間などを利用して先生に質問するなどして早めに解決する。
- ・ 復習 教科書の問題や問題集を解くことによって、学習内容が身に付いているかどうかを確認するとともに、応用問題にもチャレンジするようにする。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・小テスト ・定期考査 ・レポート ・長期休業中の課題	・ノート ・学習活動への取り組み ・宿題 ・長期休業中の課題
重みづけ	2 2 1		
	数学の学習の基礎となる基本的な「知識・技能」と「思考・判断・表現」の確実な習得を図るために、「知識・技能」と「思考・判断・表現」を重視して成績をつけます。		

科 目	(数学 A)	対 象	1 年 生 普通科	単 位	2
教 科	数学	科 目	数学 A	対 象	1 年 生 普通科
単 位	2	主な授業形態	座学		

目 標

図形の性質，場合の数と確率について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。

- (1) 場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。(知識・技能)
- (2) 図形の構成要素間の関係などに着目し，図形の性質を見いだし，論理的に考察する力，不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力，数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見いだし，数理的に考察する力を養う。(思考力・判断力・表現力)
- (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。(主体的に学習に取り組む態度)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
ジャンプ	○十分に数学における基本的な概念，原理・法則，用語・記などを理解し，基礎な知識を身に付けている。 ○教科書と副教材の基本的な内容をほとんど理解している。	○十分に数理的に考察する力を付けている。 ○筋道をたてて考える力・自分の言葉でわかりやすく表現する力をかなり付けている。	○問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。 ○課題等、やるべき事を、期限までにほとんど行っている。
ステップ	○おおよそ数学における基本的な概念，原理・法則，用語・記などを理解し，基礎な知識を身に付けている。 ○教科書と副教材の基本的な内容をおおよそ理解している。	○おおよその数理的に考察する力を付けている。 ○筋道をたてて考える力・自分の言葉でわかりやすく表現する力をおおよそ付けようとしている。	○おおよそ問題解決の過程を振り返って考察しようとしている。 ○課題等、やるべき事を、期限までにおおよそ行っている。

ホップ

○ある程度、数学における基本的な概念、原理・法則、用語・記などを理解し、基礎な知識を身に付けている。 ○教科書と副教材の基本的な内容がある程度理解している。	○ある程度、数理的に考察する力を付けている。 ○筋道をたてて考える力・自分の言葉でわかりやすく表現する力をある程度付けている。	○ある程度、問題解決の過程を振り返って考察しようとしている。 ○課題等、やるべき事を、期限までに程良く行っている。
---	--	--

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 改訂版「新編 数学A」 数研出版
副教材 改訂版3TRIAL 数学A 数研出版

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1学期	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 場合の数を求めるときの基本的な考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。
2学期	第1章 場合の数と確率 第2節 確率 確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 第2章 図形の性質 第1節 平面図形（三角形の辺の比、外心・内心・重心、チェバ・メネラウスの定理） 平面図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。
3学期	3学期 第2章 図形の性質 第1節 平面図形（円に内接する四角形、円と直線、2つの円） 平面図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 第2節 空間図形（直線と平面、空間図形と多面体） 空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 予習 教科書を読み、疑問点をチェックする。
- ・ 授業 積極的な態度で臨み、ノートをきちんととる。疑問点については、授業中に質問する、あるいは休み時間などを利用して先生に質問するなどして早めに解決する。
- ・ 復習 教科書の問題や問題集を解くことによって、学習内容が身に付いているかどうかを確認するとともに、応用問題にもチャレンジするようにする。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・小テスト ・定期考査 ・レポート ・長期休業中の課題	・ノート ・学習活動への取り組み ・宿題 ・長期休業中の課題
重みづけ	2 : 2 : 1		
	数学の学習の基礎となる基本的な「知識・技能」と「思考・判断・表現」の確実な習得を図るために、「知識・技能」と「思考・判断・表現」を重視して成績をつけます。		

目 標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長の プロセス	ジャンプ		
	ステップ		



ホ ッ プ

○生物の特徴やヒトの体の調節、生物の多様性と生態系についての知識を身につけている。
○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを、教師等による最小限の助力で行うことができる。

○生物の特徴やヒトの体の調節、生物の多様性と生態系について科学的に探究するための観察や実験方法を教師等による解説や助力を頼りに考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。
○学習内容について、教師等による解説や助力を頼りに観察、実験結果を考察し、規則性を見出したり、既知の事柄や原理・法則などをもとに、新たに直面した事柄を論理的に説明しようとしたりするなど、科学的に考察することができる。
○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、形式に沿った表現ができる。

○学習内容を正確に理解するために、基礎的・基本的な知識・技能や考察力を身につけようとしている。
○自分の学び方を振り返り、改善すべき点について考えようとする。
○課題や提出物などを、期日までに自分の力でやりきることができる。
○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒の発言、自分の考えなどをノートに記録し、授業から多くの情報を得ようとする。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「生物基礎」 （実教出版）
副教材 「アクセスノート 生物基礎」 （実教出版）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	第1章 生物の特徴 ・生物の共通性 ・生物とエネルギー 第2章 遺伝子とその働き ・遺伝情報とDNA
2 学期	第2章 遺伝子とその働き ・遺伝情報とタンパク質の合成 第3章 ヒトのからだの調節 ・からだの調節と情報の伝達 ・免疫
3 学期	第4章 生物の多様性と生態系 ・植生と遷移 ・生態系とその保全

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・予習として教科書を読み、興味・関心のある部分、疑問や理解できない部分を発見しておくこと。
- ・授業を大切にして積極的に取り組み、復習や定期考査前の学習に役立つよう、丁寧にノートを作る。
- ・復習として問題集等を利用し、疑問点や理解できない部分は積極的に質問する。
- ・実験は担当教員の指示に従っておこない、記録をとり、報告書（レポート）にまとめる。この際に疑問点、実験の成否についても考察すること。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・ノート ・長期休業中の課題	・ノート ・振り返りシート，感想 ・レポート ・長期休業中の課題
重みづけ	2	2	1
	生物の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」，「思考・判断・表現」の力を重視して成績をつけます。3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために，3観点を同じ重みづけで総括し，成績をつけます。		

目 標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)

(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。(思考力、判断力、表現力)

(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ ○各種目の高度な技を身に付けたり、記録の更新に挑戦したり、仲間に感動を与えられる表現ができる。 ○ゲームのルールや役割に応じた練習方法を工夫し、全員で楽しむためのルールの調整ができる。	○学んだ知識・技能を用いて、自己や仲間の課題解決のために効果的な練習方法を実践することができる。 ○学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を合理的・計画的に考察し、自分の考えを持つことができる。	○各種目の決められたルールやマナーを守るだけでなく、相手や仲間を尊重するなどのフェアなプレイを大切にできる態度が定着している。 ○怪我等を回避するための、適正な運動量や、とるべき行動を認識し、さらに他者への注意喚起を促す言動や行動により健康・安全を確保することができる。
	ステップ ○各種目の技を身に付けたり、記録に積極的に挑戦したり、感情を含めて表現したりすることができる。 ○ゲームのルールを理解し、教師や仲間からの助言をもとに、練習方法を考えることができる。	○学んだ知識・技能を用いて、自己や仲間の状況に応じた適切な練習方法を実践することができる。 ○学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を最小限の助言によって理解し、自分なりの考えを持つことができる。	○各種目の決められたルールやマナーを守るだけでなく、相手や仲間を尊重するなどのフェアなプレイをしようと心がけている。 ○怪我等を回避するための、適正な運動量や、とるべき行動を認識し、健康・安全を確保することができる。
	ホップ ○各種目の技を身に付けようと努力したり、記録に挑戦したり、表現したりすることができる。 ○与えられたルールを概ね理解し、教師や仲間による見本や練習方法をもとに、体力の高め方を理解する。	○教師や仲間の助言があれば、自己の状況に応じた練習方法を実践することができる。 ○学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を教師等の個別の解説や助言によって理解し、自分なりの考えを持つことができる。	○各種目の決められたルールやマナーを守るだけでなく、教師からの助言があれば相手や仲間を尊重するなどのフェアなプレイに取り組む様子がみられる。 ○教師からの助言があれば、怪我等を回避するための、運動量や、とるべき行動を認識し、健康・安全に努める。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「新高等保健体育」 （大修館書店）

副教材 「ステップアップ高校スポーツ」 （大修館書店）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	・体づくり運動 - 選択① 器械運動・ダンス - 選択② 球技（バレーボール・バスケットボール・ハンドボール・テニス・卓球・サッカー・バドミントン・ソフトボール）・武道
2 学期	・体づくり運動 ・体育理論 - 選択③ 器械運動・ダンス - 選択④ 球技（バレーボール・バスケットボール・ハンドボール・テニス・卓球・サッカー・バドミントン・ソフトボール）・武道 ・持久走
3 学期	・体づくり運動 ・持久走 - 選択⑤ 球技（バレーボール・バスケットボール・ハンドボール・テニス・卓球・サッカー・バドミントン・ソフトボール）・武道

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業を大切にして、教師や仲間のアドバイスを聞いて、技能を高める習慣を身につけるようにする。
- ・実技教科のため、欠席をせずに、課題に粘り強く取り組む。
- ・仲間と協力して、練習やゲーム、発表会に取り組む。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・スキルテスト ・ルールテスト ・体育理論テスト	・振り返りシート	・振り返りシート、感想
重みづけ	2	1	1
	実技教科のため、基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」を重視して成績をつけます。		

目 標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。

- (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
 シャンプ	○現代社会における健康課題への対策や健康の保持増進については、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることを個人、またはグループで課題を設定し考察することで理解を深めることができる。 ○安全な社会生活を送るためには、環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であることを個人、またはグループで課題を設定し考察することで理解を深めることができる。また、応急手当は速やかに行う必要があることを理解しているとともに、心肺蘇生法などの応急手当を適切に行う技能を身につけ、実践することができる。	○現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を自ら思考し判断するとともに、それらを表現することができる。 ○安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、自分の考えを持つことができる。	○現代社会と健康についての学習に主体的に取り組むことができる。 ○安全な社会生活についての学習に主体的に取り組むことができる。
 ステップ	○現代社会における健康課題への対策や健康の保持増進については、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることが理解できる。 ○安全な社会生活を送るためには、環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であることが理解できる。また、応急手当は速やかに行う必要があることを理解しているとともに、心肺蘇生法などの応急手当を適切に行う技能を身につけることができる。	○現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を最小限の助言によって思考し判断するとともに、それらを表現することができる。 ○安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、自分なりの考えを持つことができる。	○現代社会と健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。 ○安全な社会生活についての学習に主体的に取り組もうとしている。

ホップ

○現代社会における健康課題への対策や健康の保持増進については、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることを教師の解説や助言により理解することができる。

○安全な社会生活を送るためには、環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であることを教師の解説や助言により理解することができる。また、応急手当は速やかに行う必要があることを理解しているとともに、心肺蘇生法などの応急手当を適切に行う技能を教師の解説や助言により身につけることができる。

○現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を教師等の個別な解説や助言によって、思考し判断するとともに、それらを表現することができる。

○安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、教師等の助言によって理解し、自分なりの考えを持つことができる。

○現代社会と健康についての学習に教師からの助言があれば、取り組もうとしている。

○安全な社会生活についての学習に教師からの助言があれば、取り組もうとしている。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「新高等保健体育」（大修館書店）
副教材 「新高等保健体育ノート」（大修館書店）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容		
1 学期	第一章 現代社会と健康	
	① 日本における健康問題の変遷 ② 健康の考え方と成り立ち ③ ヘルスプロモーションと健康に関わる環境づくり ④ 健康に関する意思決定・行動選択	⑤ 現代における感染症の問題 ⑥ 感染症の予防 ⑦ 性感染症・エイズとその予防 ⑧ 生活習慣病の予防と回復
2 学期	第一章 現代社会と健康	
	⑨ 身体活動・運動と健康 ⑩ 食事と健康 ⑪ 休養・睡眠と健康 ⑫ がんの予防と回復 ⑬ 喫煙と健康	⑭ 飲酒と健康 ⑮ 薬物乱用と健康 ⑯ 精神疾患の特徴 ⑰ 精神疾患への対応
3 学期	第二章 安全な社会生活	
	① 事故の現状と発生要因 ② 交通事故防止の取り組み ③ 安全な社会の形成	④ 応急手当の意義と救急医療体制 ⑤ 心肺蘇生法 ⑥ 日常的な応急手当

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・実生活に結びつけて、それぞれのテーマを学習する。
- ・グループ学習等を通して、他者とのコミュニケーションを図り、知識を定着させる。
- ・ワークシートやノートを活用して、用語の理解や発問に対して答えられるようにする。
- ・教師のアドバイスを聞いて、課題に粘り強く取り組む。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・ノート ・定期考査	・授業における発表や成果物 ・ノート ・定期考査	・振り返りシート、感想 ・ノート ・定期考査
重みづけ	2 1 1		
	保健の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」を重視して成績をつけます。		

教科 芸術

科目 音楽Ⅰ

対象 各科 1年生 選択者

単位 2

主な授業形態 座学・実技

目 標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などのかかわり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 主体的・協同的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	○教師による助言を受けずとも、自分の力で課題に取り組むことができる。 ○ノートやワークシートについて、これまでの授業や中学校までの経験を生かして、多角的に取り組むことができる。	○創意工夫をして作品を完成させることができる。 ○様々なジャンルの音楽に振れ、知識の幅を広げたり、深く考えたりできようとする。
	ステップ	○時間内で課題に取り組み、作品を完成させることができる。 ○ノートやワークシートについて、自分なりの言葉でまとめることができる。	○自分や周りの出している音を注意深く聞き、他者に伝える力を高めようとする。 ○自分の学び方を振り返りながら、学び続けようとする。 ○授業で学んでいる曲を進んで鑑賞している。
	ホップ	○ト音譜表、ヘ音譜表の音符をそのまま読む、もしくは階名を振って読むことができる。 ○授業の内容を、資料を参考にしながら理解できる。	○教師による助言を参考にし、課題に取り組むことができる。 ○ノートやワークシートについて、最低限授業で求められることができる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「MOUSA1」（教育芸術社）

副教材 「Music Note」（啓隆社）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1学期	歌を歌おう ・校歌及び簡単な独唱、合唱曲を歌う。可能ならグループ学習へ移行。 楽器にふれよう ・鍵盤楽器や簡易な打楽器を演奏する。可能ならグループ学習へ移行。 指揮してみよう ・平易な曲を使用し、基本的な図形を振る。フェルマータを振る。 様々な楽器の音色に親しもう ・鑑賞をすることにより、管楽器や弦楽器の音色に親しむ。楽器の特性を知る。
2学期	一人で演奏しよう ・夏休みの課題を発表する。 表現を工夫してギターのリズムをしよう。 ・「シチリアーナ」の2～3重奏をする。 日本や諸外国の様々な楽器にふれよう ・和楽器や諸外国の民族楽器の音を出してみる。 総合芸術や楽器編成について知ろう ・歌劇や2～4管編成の管弦楽曲等を鑑賞することにより、スコアリーディングをする。
3学期	フランスの作曲家について生涯と作品をたどろう ・ドビュッシーやラヴェル等の生涯をたどりながら、作品の特徴を理解し魅力を味わう。 創作を含めた様々なアンサンブルに取り組もう ・ハンドクラップや合唱奏をグループで取り組む。各グループに応じたアレンジを行う。 ギター以外の弦楽器にふれる ・ヴァイオリンの開放弦を弾き、ボーイングのアップとダウンの違いを知る。

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業時間を大切にして、毎回の授業に熱心に取り組む。
- ・グループ学習は、メンバーと協力して発表に取り組む。
- ・提出物に関しては、締め切りを守って提出する。
- ・器楽、声楽、創作（楽典含む）、鑑賞とまんべんなく取り組むので、苦手意識を減らす。
- ・書籍やインターネットなどを活用し、普段から音楽について深い考察を心がける。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・実技テスト ・鑑賞の感想（ノート） ・ワークシート ・レポート	・実技テスト ・鑑賞の感想（ノート） ・ワークシート ・レポート	・ノート ・自己評価、他己評価 ・ワークシート
重みづけ	2	2	1
	音楽の学習の基礎となる演奏力を高めるために、「知識・技能」「思考・判断・表現」の2つの観点を重視して成績をつけます。		

目 標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。(知識及び技能)
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	○造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて深く考え、創造的に発想したり、構想を練ったりすることができる。 ○価値意識をもって美術に対する見方や感じ方を深めることができる。	○主体的に美術の幅広い創造活動に取り組んでいる。 ○他人の作品を積極的に鑑賞し、良さや違いを発見し、多様な価値観に気づくことができる。 ○創意工夫をして真摯に製作に取り組み、作品を完成させることができる。
	ステップ	○造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、創造的に発想したり、構想を練ったりすることができる。 ○美術に対する見方や感じ方を深め、意図や目的について考えることができる。	○積極的に美術の幅広い創造活動に取り組んでいる。 ○他人の作品を鑑賞し、良さや違いを発見し、多様な価値観に気づくことができる。 ○創意工夫をして作品を完成させることができる。
	ホップ	○教師による助言を参考にし、創造的に発想したり、構想を練ったりすることができる。 ○身の回りの美術について知り、興味関心を持ち、意義や価値について考えることができる。	○提出物や課題等、やるべきことを期日までに自分でやりきろうとする。 ○他人の作品を鑑賞し、良さや違いを発見することができる。 ○学んだ知識や技法を生かして作品を完成させることができる。

■何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「高校生の美術1」（日本文教出版）

準備物 中学で使った絵の具セット

■いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	・ 絵画 1（よく見て描く） 目の前のモチーフをよく観察し、鉛筆デッサンを描きます。 ・ 絵画 2（絵の具で描く） 絵の具を使って絵画を制作します。
2 学期	・ デザイン、立体造形 テーマに沿ってデザインを考え、立体で制作します。
3 学期	・ アニメーション コマ撮りアニメーションを制作します。

■どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 1つ1つの課題に対して目標と向上心を持って取り組む。
- ・ 授業時間を大切にして、毎回の授業に集中して取り組む。
- ・ 実技教科のため、作品は必ず完成させる。
- ・ 提出物に関しては、期限を守って提出する。
- ・ 絵画、デザイン、立体とまんべんなく取り組むので、苦手意識を減らす。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・ 作品 ・ アイディアスケッチ	・ 作品 ・ アイディアスケッチ ・ ワークシート	・ 授業態度 ・ 準備物 ・ ワークシート
重みづけ	2	2	1
	美術の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得と、発想力や創造性の向上を図るために「知識・技能」「思考・判断・表現」の2つの観点を重視して成績をつけます。		

教 科	芸術	科 目	書道 I	対 象	各科
単 位	2	主な授業形態	実技		

目 標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。（知識及び技能）
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。（思考力、判断力、表現力）
- (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。（学びに向かう力・人間性等）

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	○作品や書のよさを感じ取り、それを言葉で表現し、伝えることができる。 ○自ら心に響く言葉を選定したり、表現したいことを明確にしたりして、その感興に基づき作品の構想を立てることができる。 ○試行錯誤をしながら、より良い作品に仕上げるため変化させることができる。	○様々な活動を通して、知識の幅を広げたり、深く考えたりできる。 ○生活や社会において書が果たしている役割や効用を模索し、それを尊重できる。 ○作品制作において、主体的に取り組み、創意工夫を繰り返すことができる。
	ステップ	○作品や書のよさを味わい、自分なりの考えを持つことができる。 ○言葉の持つイメージや、表現したいことを伝えることができる。 ○教師や友人からの助言を参考にし、より良い作品に仕上げようとするすることができる。	○様々な活動を通して、知識の幅を広げることができる。 ○生活や社会において書が果たしている役割や効用を考えることができる。 ○作品制作において、主体的に取り組み、より良い作品にしようとする態度がみられる。
	ホップ	○文字の点画の構成を理解し、用具用材を正しく使い、表現することができる。 ○書の伝統と文化について、興味を持つことができる。 ○資料を参考にしながら、表現したいことを構想に表すことができる。	○提出物や課題等、やるべきことを期日までに自分でやりきろうとする。 ○生活や社会の中で書がどのような場面で用いられているか考えることができる。 ○作品制作において、自分の表現を振り返り、学んだ知識と技能を生かして作品を完成させることができる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「書道Ⅰ」（教育出版）

準備物 太筆

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	【漢字の書】楷書の学習 「九成宮醴泉銘」、「孔子廟堂碑」、「雁塔聖教序」、「顔氏家廟碑」の臨書 ・書風の違いを味わい、用筆・運筆法を身につける。 楷書の作品を創作しよう ・学んだ古典の特徴を生かし、創作する。
2 学期	【漢字の書】行書の学習 「蘭亭序」、「風信帖」の臨書 ・行書の特徴を知り、基本的用筆法を身につける。 ・書風の違いを味わい、表現する。 【篆刻】 自刻印を制作しよう ・篆書体の特徴を理解し、草稿をつくる。 ・印刀などの用具を正しく使い、印を彫る。
3 学期	【仮名の書】 「蓬萊切」「高野切第3種」の臨書 ・仮名の基本的用筆法を学び、平仮名、変体仮名を書く。 ・連綿の特徴を学び、連綿のある語句を書く。 ・古筆の良さを味わいながら臨書する。 【漢字仮名交じりの書】 オリジナルカレンダーの制作 ・これまでの学習で学んだことを生かし、個性を生かした表現で創作する。

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業時間を大切に、毎回の授業に熱心に取り組む。
- ・一つ一つの課題に対して目標と向上心を持って取り組む。
- ・実技教科なので、作品は必ず仕上げ提出する。
- ・日常生活の中で見られる書について関心を持ち、深い考察を心がける。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・作品 ・ワークシート	・作品 ・草稿、デザインアイディア ・ワークシート ・鑑賞シート	・授業態度 ・ワークシート ・感想、自己評価
重みづけ	2	2	1
	書道の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得と、発想力や創造性の向上を図るために、「知識・技能」「思考・判断・表現」の2つの観点を重視して成績をつけます。		

目 標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考え方などを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。**(知識・技能)**
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。**(思考・判断・表現)**
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。**(学びに向かう力・人間性等)**

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ ○登場した英単語や文法事項を場面や状況に応じて正しく使用することができる。 ○積極的に発音や音読に取り組み、正しい発音やアクセントを身につけており、間違いがあれば気付いて修正することができる。	○学んだ知識を用いて、題材となっているテーマについて正しく読み取ったり聞き取ったりすることができる。 ○読んだり聞いたりしたことをもとに、与えられたテーマについて発表用の原稿などを正しく書くことができる。	○自ら興味関心を持って、題材となっているテーマについて調べたり、自らと関連付けて考察したりすることができる。 ○積極的に学んだことを発表しようとしたり、自ら相手と考察を共有しようとしたりすることができる。
	ステップ ○登場した英単語や文法事項を、例文等を参考にして目的や場面に応じて使用することができる。 ○教員の指示があれば、積極的に発音や音読に取り組むことができ、正しい発音やアクセントを身につけることができている。	○学んだ知識を用いて、題材となっているテーマについて読み取ったり聞き取ったりすることができる。 ○教員の指示があれば、読んだり聞いたりしたことをもとに、与えられたテーマについて発表用の原稿などを書くことができる。	○教員の指示のもと、題材となっているテーマから学んだことを、興味関心を持って考察したり、自らの話題として深めたりすることができる。 ○教員の指示があれば、学んだことを発表したり、相手と考察を共有しようとしたりすることができる。
	ホップ ○多少の誤りはあるが、登場した英単語や文法事項を目的や場面に応じて使用することができる。 ○教員の指示があれば、発音や音読に取り組むことができ、正しい発音やアクセントを身につけようとしている。	○多少の誤りはあるが、学んだ知識を用いて、題材となっているテーマについて読み取ったり聞き取ったりすることができる。 ○教員の支援があれば、読んだり聞いたりしたことをもとに、与えられたテーマについて簡単な文を書くことができる。	○教員の指示のもと、題材となっているテーマから学んだことについて調べたり、自らの話題として考えたりしようとしている。 ○学んだことを相手に伝えたり、考察を共有しようとしたりする姿勢がみられる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「Power On English Communication Ⅰ」（東京書籍）

副教材 「チャンクで英単語 Standard」（三省堂）、「BIG DIPPER」（数研出版）

「WORKBOOK Power On English Communication Ⅰ」（東京書籍）

■いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	Lesson 1 Japan's New Tourism - 外国からの観光客に人気の体験型ツーリズムについて学ぶ。（動詞の現在形・過去形，進行形，助動詞＋動詞の原形） Lesson 2 Light from Creatures - 生き物が光る理由や，その光が医療研究に利用されていることを学ぶ。（受け身，現在完了形，現在完了進行形） Lesson 3 Routes to the Top - スポーツクライマーである野口選手インタビュー。（動名詞，不定詞，S+V+O [that 節]） Lesson 4 Left to Right, Right? - 日本のマンガの形式やその翻訳に関する留学生による発表。（後置修飾の現在分詞・過去分詞，比較級・最上級）
2 学期	Lesson 5 Banana Paper - ザンビアのバナナの茎から作られるバナナペーパーへの日本の伝統技術貢献に関する講義。（関係代名詞（主格），関係代名詞（目的格），S+seem+to 不定詞） Lesson 6 Patterns in Human Behavior - 人間の興味深い行動パターンに関する実験の手順や結果を解説する雑誌記事。（It+be 動詞＋形容詞＋that 節，S+V [be 動詞以外+C]，S+V+O+C [形容詞]） Lesson 7 No Plastic or No Future - プラスチックがもたらす環境破壊に関する論説文。（関係副詞where，関係副詞when，関係代名詞what） Lesson 8 Oh My Cod! - イギリス人ALT によるフィッシュ・アンド・チップスの歴史と食料資源に関する発表。（現在分詞の分詞構文，関係代名詞の非制限用法，過去完了形）
3 学期	Lesson 9 Is E-sports a Real Sport? - 世界中の若者の間で人気が出てきているe スポーツの実況中継。（S+V [知覚] +O+ [現在分詞，原形不定詞]，S+V [使役] +O+C [原形不定詞]，S+V+O₁+O₂ [if などの節]） Lesson 10 Being Different Is Beautiful - 写真家ヨシダナギさんに関する雑誌記事。（wish＋仮定法過去の節，仮定法過去のas if 節，仮定法過去のif 節） *実際の授業は種々の都合によりこの通りに行われないことがある。

■どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- 予習として、教科書を読んでわからないところを見つけておく。
- 自分の課題やできるようになりたいことを意識しながら授業に臨み、授業で何がわかったか、できるようになったかを振り返る習慣をつける。
- 板書を写し取るだけでなく、自分の考えや疑問点等を書き加えたり、後で調べたことを追記したりするなど、復習に役立つような工夫したノートづくりをする。
- 提出物は丁寧に仕上げて、期限を守って提出する。
- 英語で日記をつける、英語の歌を覚えて歌う、興味のある分野について英語の記事を読む等、授業以外でも英語を使う機会を作ってみる。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	- 小テスト - 定期考査	- 定期考査 - レポート - 授業における発表や成果物 - ノート - 長期休業中の課題	- ノート - 振り返りシート、感想 - レポート - 長期休業中の課題 - 授業における発表や成果物
重みづけ	2	2	1
	英語学習の基礎となる「知識・技能」、「思考・判断・表現力」の確実な習得を図るために、「知識・技能」、「思考・判断・表現」を重視して成績をつけます。		

目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。**(知識・技能)**
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。**(思考・判断・表現)**
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。**(学びに向かう力・人間性等)**

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	○場面や状況を理解し、絵や地図のような視覚的補助や接続詞等の補助を使って提案、紹介、依頼、説明、質問などの表現が適切にできる。 ○助言や勧誘内容を理解し簡単な語彙を使ってそれに応える自分の考えや気持ちを詳しく伝え合っている。	○自身の活動や日常生活、状況を主体的に考えながら、積極的に活動に取り組もうとしている。 ○様々な補助を使い、基礎的な語彙や簡単な文を使って相手と自分の考えを詳しく伝え合おうとしている。
	ステップ	○多少の誤りはあるが、学んだ知識を用いて提案、紹介、依頼、説明、質問などの表現を短い文や句を使って運用できる。 ○自分の考えや気持ちを話す、書くなどして伝える基本的技能を一部身につけている。	○自身の活動や日常生活、状況を主体的に考えながら、活動に取り組もうとしている。 ○様々な補助を使い、基礎的な語彙や簡単な文を使って相手と自分の考えを伝え合おうとしている。
	ホップ	○学んだ知識を用いて提案、紹介、依頼、説明、質問などの表現を短い文や句を使って多少の誤りがあるものの運用できる。 ○自分の考えや気持ちを話す、書くなどして伝える基本的技能をおおむね身につけている。	○自身の活動や日常生活、状況を考えながら、活動に取り組もうとしている。 ○様々な補助を使い、基礎的な語彙や簡単な文を使って相手と自分の考えを何とか伝え合おうとしている。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「MY WAY Logic and Expression」 （三省堂）
副教材 「BIG DIPPER 高校英語」 （数研出版）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	Lesson 1 Let' s talk about Ourselves ・ 現在形（Be 動詞）（一般動詞） Lesson 2 School Life ・ 過去形（be 動詞、一般動詞）、現在進行形、過去進行形 Lesson 3 The Arts ・ 未来表現、基本時制のまとめ
2 学期	Lesson 4 Food and Culture ・ 現在完了形 Lesson 5 Welcome to Our Town ・ 助動詞、受動態 Lesson 6 Traveling Abroad ・ 不定詞
3 学期	Lesson 7 Sports ・ 動名詞、分詞の後置修飾、分詞構文 Lesson 8 Everyday Technology ・ 比較

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 予習として、教科書を読んでわからないところを見つけておく。
- ・ 文や文型、文法事項、語や連語の知識を整理、活用し、初級レベルの英作文に取り組む。
- ・ 様々な場面にふさわしい表現ができるように、簡単な英作文に取り組む。
- ・ 基本的な表現を口頭で再生し、その表現を使いながら身につけて短い発話や会話に取り組む。
- ・ 提出物は丁寧に仕上げて、期限を守って提出する。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・ 定期考査 ・ 小テスト ・ レポート（振り返りプリント） ・ インタビューテスト	・ 定期考査 ・ レポート（振り返りプリント） ・ インタビューテスト	・ ノート ・ レポート（振り返りプリント） ・ 提出物 ・ 長期休業中の課題
重みづけ	2	2	1
	論理・表現の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」「思考・判断・表現」を重視して成績をつけます。		

目 標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。(知識及び技能)
- (2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	○情報社会における問題や課題を正しく理解し、その解決策を自分なりに工夫することができる。 ○情報セキュリティの確保に向けて、目的に応じた適切な方法を選択することができる。 ○自分の意見や考えを、情報機器を活用して視覚的にわかりやすく伝えることができる。 ○問題解決の手順を論理的に考えることができる。	○情報社会に主体的に参画しようとしている。 ○情報と情報技術を適切かつ効果的に活用しようとしている。 ○よりよいコミュニケーションを行うために、自らの取り組みを評価・改善できる。 ○問題解決に情報機器を積極的に活用し、自ら結果を振り返って改善しようとしている。
	ステップ	○情報社会と人間との関わりについて考え、情報と情報技術の活用の意義を理解している。 ○情報に関する法規や制度、情報セキュリティとは何か、どのようなものであるかを理解している。 ○情報デザインの考え方について、十分に理解している。 ○アルゴリズムをフローチャートなどで表現する技能を身につけている。	○情報社会における問題の発見・解決に、情報と情報技術を適切に活用している。 ○情報モラルに配慮して、よりよいコミュニケーションを行おうとしている。 ○情報伝達のために、コンテンツ制作の個人技能を高めようとしている。 ○生活の中で使われているプログラムを見出して、自分なりに考えて活用しようとしている。
	ホップ	○情報の特性を活用した事例と、それによって生じる事例を挙げることができる。 ○情報セキュリティの脅威に対する対策について、説明することができる。 ○報告者やレポートの目的に対して、体裁を考え、わかりやすい資料を作成し報告できる。 ○簡単なアルゴリズムを文章やフローチャート等の図で表現できる。	○社会の中の情報システムについて、興味・関心を持っている。 ○情報セキュリティに対して、リスクを軽減するための対策を行おうとしている。 ○わかりやすい報告書やレポートを作成するため、自ら進んで工夫しようとしている。 ○問題解決のためのアルゴリズムを、教師の助言のもと考えようとしている。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「最新 情報Ⅰ」 （実教出版）
 副教材 「最新 情報Ⅰ 学習ノート」 （実教出版）
 「Excel で学ぶプログラミング」 （実教出版）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	第1章 情報社会と私たち ・1 節 問題解決 ・2 節 情報社会の法規と権利 ・3 節 情報技術が築く新しい社会 第2章 メディアとデザイン ・1 節 メディアとコミュニケーション ・2 節 情報デザイン ・3 節 情報デザインの実践
2 学期	第3章 システムとデジタル化 ・情報システムの構成 ・情報のデジタル化 第4章 ネットワークとセキュリティ ・情報通信ネットワーク ・情報セキュリティ
3 学期	第5章 問題解決とその方法 ・1 節 問題解決 ・2 節 データの活用 ・3 節 モデル化 ・4 節 シミュレーション 第6章 アルゴリズムとプログラミング ・1 節 プログラミングの方法 ・2 節 プログラミングの実践

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ソフトウェアやインターネットなどを活用して、問題や課題と向き合う。
- ・情報機器の仕組みを理解して積極的に活用し、生活の中で利用できる操作や技術を身につける。
- ・仲間やグループで話し合いや意見交換を行い、自身の考えと他者の考えを比較・検討する態度を持つ。
- ・新聞やインターネットなどのメディアに積極的にふれ、社会事象に興味・関心を持つ。
- ・日常生活において、個人情報やセキュリティに対して注意深く考える習慣を持つ。
- ・色々な場面の小さなことでも、創造力を生かした発想や論理的に物事を考える習慣を大切にする。
- ・提出物は丁寧に仕上げ、提出期限を守る。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査 ・機器操作のテスト	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・学習ノート	・学習ノート ・振り返りシート、感想 ・レポート ・機器操作への取り組み
重みづけ	2	2	1
	現代の情報社会において必須となる基本的な科目です。3つの資質・能力をしっかりと身につけていくために、それぞれの観点の重みを考え、総括して成績をつけます。		

1 年 組 番	氏名
---------	----